

塞に分類されます。

現在の日本では、脳卒中全体の約7割を脳梗塞が占めますが、実際の数字は分かっています。我々は滋賀医科大学アジア疫学研究センター内に滋賀脳卒中データセンターを立ち上げ、滋賀県の脳卒中発生の実態把握のために、脳卒中発症登録事業を2011年から始めました。この登録事業では、発症数、治療成績、死亡率、社会復帰率の把握を行っています。地域における悉皆性^{しつかせい}の高いデータを収集し、これらの情報を解析、県民への情報公開や予防対策などに結び付けることを目的としています。こうした取り組みを行っている自治体はいくつかあり、京都府にも似た登録事業があります。ただ、多くの場合、各病院の医師や看護師、事務スタッフなどが自施設のデータを個別に登録する方式です。そうすると、協力してくださる各施設によって評価基準などのちがいによるデータのばらつきが生じ、悉皆性も低いものになってしまいます。

●データ集積で全国トップを走る滋賀県の最前線に立つて

私が所属しております滋賀医科大学は琵琶湖の南側、大津市瀬田にあります。大津市（34万人）と隣接する草津市（14万人）の境界に位置しており、同地域の急性期病院としての役割もはたしています。本日は、脳梗塞についてお話しします。脳の血管が詰まったり、破れたりする病気をまとめて脳卒中と、一般的に表現するのですが、このうち脳血管が詰まる病気を、脳梗塞と言います。脳梗塞はその原因別に心原性脳塞栓症、アテローム血栓性脳梗塞、ラクナ梗塞に分類されます。

講演

溶かす！吸う！拡げる！

～時間と勝負の脳梗塞最新治療

滋賀医科大学医学部医学科 辻 篤司
脳神経外科学講座 講師



10月13日に開かれた「第619回おつぎ文化講座」から要旨を採録しました。



辻 篤司（つじ あつし）

1967年、滋賀県東近江市生まれ。1992年、滋賀医科大学卒業。福井赤十字病院、草津総合病院などを経て、2014年から滋賀医科大学医学部医学科脳神経外科学講座にて現職。日本脳神経外科学会専門医、日本脳卒中学会専門医、日本脳神経血管内治療学会専門医、日本神経内視鏡学会技術認定医、日本核医学学会専門医、日本PET核医学専門医、日本脳卒中の外科学会技術指導医。